

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493600033	事業の開始年月日	平成18年6月1日	
		指定年月日	平成18年6月1日	
法人名	株式会社エクセルシオール・ジャパン			
事業所名	グループホームいきいきの家 泉			
所在地	( 〒245-0018 ) 神奈川県横浜市泉区上飯田町3805-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成25年1月12日	評価結果 市町村受理日	平成25年2月26日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>横浜市の中心地から電車やバスを乗り継いで40分程度にありながら、天気の良い日には富士山も一望できる環境のもと、穏やかな生活を提供できるホームである事が自慢です。周りは野菜畑が広がり平坦な道も多く、交通量が少ない事から高齢者が気軽に外出や散歩に出かける事ができます。近隣の小学校や中学校、他のグループホームなどが徒歩3分程度にあり、人と人が助け合い、支え合う事が可能な点が一番の魅力です。</p> <p>職員は恵まれた環境の中で、認知症高齢者であっても社会の一員として生きる喜びを感じていただく事ができるように毎日お手伝いしています。</p>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年1月30日	評価機関 評価決定日	平成25年2月21日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b>                  ◇事業所は、幹線道路から徒歩で3分ほど入った周囲が畑に囲まれているのどかな住宅地に立地している。天気の良い日は、居間や居室から富士山の眺望を楽しめる恵まれた環境にある。                  ◇事業所前の道路は交通量が少なく、周囲が平坦な畑地で見晴らしも良いため、日中は玄関・ユニットの入口共に施錠していない。職員は利用者の尊厳を第一に、いつでも自由に入出りができるように見守りに対応しており、利用者は安全で抑圧感のない生活を楽しんでいる。</p> <p><b>【事業所の工夫点】</b>                  ◇日中、玄関は施錠せずに見通しの良い自然のバリアフリーといえる環境を活かして、天気の良い日は、利用者が自由に外に出て自然に触れることができるように見守り、支援している。                  ◇排泄チェック表で排泄パターンを把握し、排泄したときはチェック表に青字で表示しており、声かけのタイミングを分かり易く工夫して失敗を少なくしている。                  ◇食事は普段は宅配されたレシピ付食材を職員が調理しているが、毎月1回は利用者の希望を入れて、献立から調理まで、利用者と一緒に食事作りを楽しんでいる。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	いきいきの家泉
ユニット名	江ノ島

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は法人及びホームの理念や目標を共有するため、朝・夕の申し送り時に話をするとともに全職員の名札の裏にモットーをプリントしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念「利用者が安心して、笑顔で明るい生活が送れるよう支援する」を、職員の入職時に説明して実践につなげている。</li> <li>・基本理念と倫理綱領をユニット入口に掲げて、職員と利用者・家族の理解と共有を図っている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しています。自治会の盆踊りや防災訓練に参加するほか、近隣中学校の体験学習の受け入れをするなど、地域の一員として存在しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に加入して、地域の盆踊りや防災訓練には職員と一緒に利用者も参加し交流している。</li> <li>・大正琴などのボランティアや中学生が体験学習で来訪している。</li> <li>・今年は花火大会に近所の方々を招待する企画をしている。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	車椅子の方を含めて近隣の散歩を通じて認知症に対する理解を深めるよう、交流を図っています。スタッフや利用者様の顔を覚えて頂けるよう挨拶は欠かさずしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合われた内容は、議事録を作成しスタッフに報告するとともに、ミーティングやカンファレンスなどでスタッフ同士が話し合い、サービス向上に努めています。今年度より年6回開催。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議は区職員、地域包括支援センター職員、自治会長、家族、利用者が参加して、年6回開催している。</li> <li>・事業所の状況報告、事故報告の他、避難訓練等で意見交換をして結果を運営に反映している。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	防災訓練の参加の呼びかけ、協力をお願いしています。毎月区の担当者に生活状況の報告を行い、問題が生じた場合は相談などを行っています。年1回泉区内のグループホーム、全体での運営推進会議があり情報交換をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の要介護更新申請で、区役所に出かける際に、区の担当者に事業所の近況を報告している。</li> <li>・利用者のサービスや運営上の件では、その都度区役所の担当者と相談している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間の防犯目的以外は施錠せず、常にフリーの状態です。玄関のドアは寒冷期を除き9時から18時まで開放しています。 職員は「自己点検シート」でケアの内容を確認している。	・「身体拘束ゼロ」のマニュアルに基づき、職員研修を行い周知徹底している。職員は「自己点検シート」でケアの内容を確認している。 ・日中は玄関もユニット入口も開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士が声掛けしあい、常に注意をし合い虐待を見過ごさないようにしています。虐待とは何か、些細な事でも虐待となり得る事を、具体的な例を出し話しをするようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	厚生労働省ホームページによる資料を回覧して見識を高めています。当ホームは生活保護受給者が多いことから、後見人や区の担当者と打ち合わせの機会もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず2時間程度かけて文書を見せながら口頭で説明した上で、質問をうけるようにしています。利用者または家族には納得していただいた上で署名捺印をお願いしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	敬老会やクリスマス会などのホーム内行事にご家族を招待しています。また運営推進会議にて参加者同士が意見交換をすることが出来ている。家族会や運営推進会議の議事録は、欠席のご家族へ郵送にて報告するようにしている。	・家族の来訪時や運営推進会議で、また敬老会やクリスマス会など、行事後の懇談の場で、家族の意見や要望を聞いている。 ・家族には毎月「生活状況報告書」を送付して、利用者の現状と問題点を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が月に1回法人のグループホーム連絡会議に出席して意見交換をしており、議事録も作成しています。 職員の意見は、数か月に1回行うミーティングにて聞く機会を設けている。	・管理者はフロアミーティングで職員の意見や提案を聞いて、結論を出しサービスに反映している。 ・最近では、休憩時間の取り方や食事介助の当番についての提案があり改善を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回査定により勤務状況や労働状況を確認しています。また社内には通報制度があり、職員が代表者に直接文書で報告や相談ができる環境を整えています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が複数のグループホームを有しているため、職員相互の研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	徒歩3分にある他ホームとは運営推進会議を合同開催、花火大会に参加するなど、気軽に相談できる関係です。現在は災害時の相互連携に向けた話を進めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向を聞くように書面を作成しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を聞いた上で書面を作成しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況について、家族や医療機関、担当ケアマネージャーなどから情報収集をしてニーズを正確にとらえるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食前の準備や後片付け、清掃など生活のあらゆる面で入居者の活躍のばを設けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には定期的な訪問を促し、イベントへの参加にも誘っています。個別の外出も行っていただくよう話しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族との外食や外泊の推進をしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話や手紙の取次ぎ等、馴染みの人との関係継続の支援をしている。</li> <li>・馴染みの人と少人数で気軽に外食やお茶に出かけている。</li> <li>・墓参に、家族と一緒に出掛ける利用者もいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が他の利用者様の見守りをしたり、皆で洗濯を畳むなど、相互に関わりあうことができる雰囲気です。 レクリエーションの一環として、利用者様が主体となり体操をする時間を設けている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に入院など医療依存が著しくなった場合には、その後の状況など医療機関と連携を図っています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン（1）に本人の意向欄を設けています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話しやすい環境づくりに配慮して、利用者の思いや意向は日常の会話の中から聞いている。</li> <li>・意思表示が困難な方には、家族に聞いたり、表情や仕草から判断している。得られた情報は職員間で申し送り共有している。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより調査をした上でホーム独自のフェースシートに記載しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	逐一様子をうかがい、個別の介護記録に時系列で記載しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向欄を設けています。 毎月モニタリングを行うほか、定期的にカンファレンスを行い、介護職・ケアマネ等と意見交換を行っています。	・毎月モニタリングを行い、カンファレンスで生活状況を確認し、家族の要望や医師の意見を入れて介護計画を作成している。 ・介護計画は6か月毎に、また、急変時には都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別には介護記録を作成しており、常に職員が目を通して気づいた点を話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天気の良い日はドライブや買い物に出掛けています。 利用者様の希望により、数名単位で外出に出かけるなど柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のガソリンスタンドやコンビニをお願いをして、入居者が単独で散歩や買い物をできるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で近隣病院より内科医が訪問診療に来てくれています。インフルエンザの予防接種はホームにて行い、病院受診の必要はありません。また、精神科や眼科等、協力病院以外への送迎も実施しております。	・精神科や眼科その他診療科は、かかりつけ医で受診し、職員又は家族が付き添っている。内科は現在利用者全員が、月2回往診する協力医で受診している。 ・訪問看護師が毎週来訪し、健康管理にあたっている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が定期的に訪問してきます。訪問診療での指示内容を報告したり、経過をみて頂き、気づいたことを書面で残してもらっています。訪看の記録は、訪問診療に同行する看護師にも同様の報告をしてもらい、情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が2～3か月に1回程度、近隣の医療機関にあいさつ回りをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面を作成しています。入居後、時間が経過するとともに気持ちが変わっている事も考えられる為、適宜ご家族と話し合う場を設けています。また状態に変化があった場合にはその都度、話し合いを行っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」「終末期等に関する希望」を説明し、意向を確認している。以後、状況の変化に応じて話し合い対応している。</li> <li>・食事の経口摂取が難しくなった場合は入院を勧めている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを掲示しており、特に夜勤者は毎回見ながら業務にあたるよう指導しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施するとともに両隣の民家や数件先の別のグループホームとも連携を取っています。災害時用に、水・食料を備蓄しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は年2回、うち1回は消防署立会いで夜間想定訓練を実施している。</li> <li>・近隣の人々に声かけするが参加はない。近所の別法人グループホームとは連携している。</li> <li>・非常用品は3日分備蓄している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議の議題の一つに取り上げ、避難訓練に近隣の住民や地域の消防団などの参加、協力を得られるよう働き掛けが望まれます。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
kai					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を損なわないことを宣言する倫理規定を玄関に掲示し、家族にも見てもらって職員の意識を高めています。 全職員がお互いに注意し合って業務にあたっています。	・倫理規定に「利用者の尊厳に配慮した対応」をうたっており、職員は常に利用者の誇りやプライバシーを損ねない言動に留意している。 ・介護の現場で、ユニットリーダーや管理者、職員間で指摘しあい、利用者の尊厳とプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食時、利用者様が自由に食べたい物を選び食べられる機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	横になりたければ横になって頂く、外に出掛けたければ、散歩や買い物に行く時間を作るなど、施設という形にとらわれず、生活の場ということを忘れず、利用者様のご希望に沿った生活が送れるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日パジャマと洋服は着替えて頂くよう支援しており、着たい服を選んでいただくよう声掛けしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや調理した物を、小鉢に取り分ける、食器を洗う等のお手伝いをして頂いています。また職員も利用者様と一緒に食事を取り、コミュニケーションの場としても捉えています。	・日常の献立や食材は委託業者に依頼しているが、行事食など毎月1回は利用者の希望を入れて、利用者が参加して献立から調理まで、利用者と一緒に食事作りを楽しんでいる。 ・少人数での外食や喫茶も楽しみの一つになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量はそれぞれ毎日のチェックリストに記入しています。 好き嫌いのある方や咀嚼がうまくできない方など、個別にひとりひとりに対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を毎食後記入しています。お一人で出来ない方は、職員が介助に入ります。 訪問歯科が隔週で来ており、希望者のみ契約して診て頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンに合わせた声掛け、トイレ誘導を行う事で失禁を減らし、トイレでの排泄が出来るように支援しています。 排泄パターンの把握のため、排泄チェックリストを工夫しています。	・排泄チェック表で排泄パターンを把握し、排泄したときはチェック表に青字で表示しており、声かけのタイミングを分かり易く工夫して失敗を少なくしている。 ・職員は利用者のプライバシーに配慮した介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に牛乳やヨーグルトを提供して便秘解消を図っています。 毎日排便状況を確認して、腸閉塞などの病気を起こさないように注意しています。必要に応じて、往診医と相談のうえ、下剤等を処方してもらう事もあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日10時から15時まで浴室を自由に使用できます。 週の入浴回数は決めておらず、利用者様が希望した時に入浴できるようにしている。 季節に合わせて、柚子湯や菖蒲湯などを楽しんで頂いている。	・入浴日、・時間帯等は、利用者の希望に沿って対応している。好みの石鹸やシャンプーなど持込む方もいる。冷え性の方には、就寝前に足浴の対応をしている。 ・季節に応じ柚子湯や菖蒲湯で楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に昼寝をして頂くよう促したり、体調や年齢を考慮した対応をしています。 リネン類は週1回洗濯し、天気の良い日は布団を干すなど気持ちよく眠りにつけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方薬の一覧をファイリングしていつでも目を通せるようにしています。服薬時は職員二人以上で確認するよう徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	トランプや花札、編み物、パズル、買い物等の外出を個別に組み込んで日々の生活を張りのあるものにしていきます。 洗濯物や新聞折り、裁縫など利用者様の得意分野でお手伝い頂ける機会を設けています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人で外出される事はありませんが、天気の良い日に散歩に出掛けたり、買い物に行くなど出掛ける機会を設けるようにしています。 季節に合わせて、車で初詣や花見に出かけています。	・利用者の希望にそって、散歩の途中近くの幼稚園や学校の様子を見たり、日常の買い物に車で外出することもある。 ・職員の提案で、希望を募り、吊るし雛など季節に合わせた催し物の見学に出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームの事務が行っておりますが、利用者様によりお預かり金の残金をお知らせしています。 また職員と利用者様の中で取り決めたお小遣いを毎月お渡しして、買い物の際、ご自分でお支払、管理されている方もいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話機を使用させていただき、プライバシーに配慮しつつ、ご家族や友人といつでもお話ができるような環境を作っています。個人のお手紙は開封する事無く、ご本人へ手渡し、管理して頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、居室ともに採光があり非常に明るいです。居室によっては天気の良い日は富士山もみることが可能な穏やかな環境です。リビングの壁面には、行事の写真を貼り出し楽しい雰囲気演出しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日差しが入る広いリビング、利用者も一緒に使える台所、車椅子がすれ違える廊下や引き戸付トイレなど使いやすい共用空間になっている。</li> <li>・居間と玄関に季節の花を飾り、壁面に利用者の作品が掛けて、居心地良く過ごせるよう配慮している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人数分以上の椅子を設置してあり、誰でも使用できるほか、マッサージチェアやウッドデッキにもベンチを用意してゆったりと過ごせる環境を構築しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやベッドなどの持ち込みが可能な為、自宅で使い慣れた家具に囲まれ、利用者様にとって居心地の良い居室となるよう支援しています。また写真や人形を居室に飾るなど好みに合わせてレイアウトできるようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者により、ベッド・カーテン・整理ダンスの他、仏壇やテーブルなど馴染みのものを持ち込み居心地良く過ごせるよう配慮している。</li> <li>・好みの人形や自作の作品を飾るなど、利用者の習慣や好みに合わせた部屋づくりを支援している。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室よりホームの庭、ベランダに出ることが可能で、家庭菜園や植木、お花を楽しまれる方もいます。		

事業所名	いきいきの家泉
ユニット名	鎌倉

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関口と各フロアに掲示し、スタッフが目を通しやすい状況にしている。目標の共有化。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の年間行事の予定をもとに、声を掛けていただけることも多くなるべく参加している。また、大家さんのご好意で近所の畑の野菜の収穫を手伝ったりいただいたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の散歩時には欠かさずに挨拶をおこない、グループホームという福祉施設があることを認識していただく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な専門機関の方が集い、意見交換ができ、入居者様の事故について改善策を講じていただくことあり。現場に戻り、スタッフに伝達をおこなっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所より、研修のFAXを送っていただくことあり、職員が参加している。また、他施設との交流も図れることができる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての資料を配布し、どのようなことが拘束にあたるのかということを理解してもらっている。身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料を配布し、どのようなことが虐待にあたるのかということを理解してもらっている。防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	厚生労働省ホームページによる資料を回覧して見識を高めています。当ホームは生活保護受給者が多いことから、後見人や区の担当者と打ち合わせの機会もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず2時間程度かけて文書を見せながら口頭で説明した上で、質問をうけるようにしています。利用者または家族には納得していただいた上で署名捺印をお願いしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	敬老会やクリスマス会などのホーム内行事にご家族を招待しています。また運営推進会議にて参加者同士が意見交換をすることが出来ている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が月に1回法人のグループホーム連絡会議に出席して意見交換をしており、議事録も作成しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回査定により勤務状況や労働状況の確認をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が複数のグループホームを有しているため、職員相互の研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	徒歩3分にある他ホームとは運営推進会議を合同開催、花火大会に参加するなど、気軽に相談できる関係です。現在は災害時の相互連携に向けた話を進めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の介護業務の中で、傾聴対応に心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の方が面会に来られた際には近況を報告し、困りごと等をお伺いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報交換を密にし、ご本人様や御家族様との面会の中でご要望と必要とされているニーズを抽出。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯のお願いするばかりでなく、職員側からご希望を聞きそれに沿うような形をとっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方にはご本人様のことについて相談させていただくこともあり、共に支援していけるような形をとっている。行事ではご一緒に過ごしていただく時間を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご本人様の話の中で、故郷のこと等が出てきた時には傾聴している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中にレクリエーションの時間を設けたりすることにより、コミュニケーションの時間を増やせるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所された場合は、情報の提供を退去されたのちも必要に応じておこなっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様にとっての希望を第一に考え、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴をもとに、ご本人様の性格や考えを理解し新たにフェースシートを作成する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態については毎朝バイタル測定をおこない、バイタル以外にも表情や心情にも心配りをするように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者は主として訪問Dr. になりますが、毎週ホームに来ていただき入居者の身体的状況についての助言をいただいている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違うようなことがあった場合には必ず個別記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全員参加でなくても外出の機会も多くもっていけるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会とは行事等に参加の声をいただいたりして活性化されているほうだと思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用して月2回受診をしている。Dr. に日常の様子を細かく説明し適切な指示や助言をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	不安に感じた点については24時間ナースが電話対応して下さるので職員も報告、相談をしやすい状況にあると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後においても定期受診をされている方がいる。必要な情報は互いに情報提供し連携がとれている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアとしてどこまでおこなえるかどうかの話し合いは入居時にしている。書面を作成。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを掲示しており、特に夜勤者は毎回見ながら業務にあたるように指導している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施。近隣の方との連携。水を3日分備蓄している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は、お客様という認識を忘れずに日々の業務にあたるように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を飲みたいのか、食べたい、したいことは何か等問いかけを多く持つように心掛け、自己決定していただく事を増やしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	横になりたければ横になっていただく等、施設という形にとらわれず生活の場ということを忘れずにご本人様のご希望に沿っていただくように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、整容には特に朝（起床時）は気をつけている。洋服はご自分で選んでいただくように声掛けしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は必ず職員も一緒にとるようにし、コミュニケーションの場のひとつとしてとらえている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いのある方や咀嚼がうまくできない方など、個別にひとりひとりに対応をし、安定した食事量、水分量を摂っていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできない方には職員側でお手伝いさせていただいている。毎食前のうがいもおこなっていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間のオムツの方は、日中はトイレ介助とさせてもらっている。定時でトイレ誘導していくことにより、排尿の間隔を覚えていただくように心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用せずに牛乳を飲んでいただいたり、水分を多めに摂っていただくといった対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	10時～15時の中で、好きな時間に入浴して頂けるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間以外にも、その日の状態に合わせて、昼に臥床していただいたり、いつでも休めるような環境にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	精神薬を服用されている方に関しては日々の変化に注意して、細かく介護記録に残すようにしています。記録に基づき、Drに状態を正確に報告する事で、症状に合わせた薬を処方してもらえるように気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味はひとりひとり違うので、好きなことをまず見つけ出す努力をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人で外出される方はいません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームの事務が行っておりますが、利用者様によりお預かり金の残金をお知らせしている。また職員と利用者様の中で取り決めたお小遣いを毎月お渡しして、買い物の際、ご自分でお支払、管理されている方もいます。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話機を使用いただき、プライバシーに配慮しつつ、ご家族や友人といつでもお話ができるような環境を作っています。個人のお手紙は開封する事無く、ご本人へ手渡し、管理して頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的にはあまり物を置きすぎないようにしている。リビングの壁には行事の写真を飾り、楽しい雰囲気作りを心掛けている。季節に合わせた花などを飾り、室内にいても季節感を感じて頂けるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、居室や食事の席以外にリビングにソファを置き利用者様同士がコミュニケーションを取れる場をつくっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅と変わらないような状況で生活をしていただけるようにしています。ダンスや仏壇など、利用者様にとって馴染みのある物を持参して頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の入口に名札を掛けるなどして、ひと目で場所が分かるように工夫している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 いきいきの家 泉

作成日 平成25年2月25日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災訓練ではホームの人員のみでの実施となっており、近隣住民が参加することがない。	近隣住民も参加した防災訓練を実施する。	運営推進会議の議題に取り上げ、避難訓練に近隣住民や地域の消防団等の参加、協力を得られるよう働きかける。 近隣住民に対しては直接ご案内をお届けしお誘いする。	1年間
2	13	職員を育てる取り組みが不十分である。	新入職員に対する研修、教育方法を改善する。外部研修を含め、職員全体が研修を受けられる環境を作る。	新入職員への研修、教育はチェックリストを作成し指導をしていく。 マニュアルの内容を見直す。 外部研修に参加できるように勤務表を調整する。	1年間
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。